



なえ
イネの苗はどうしてふえるの

かぶわ
イネは株分かれてふえていく

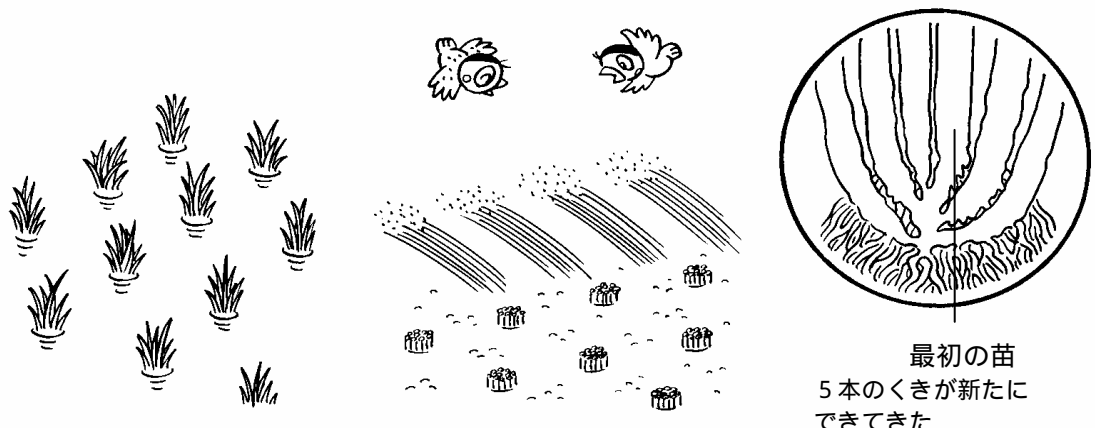
なわしろ そだ なえ がつ がつ ほん すいでん う
苗代で育てたイネの苗は、5月から6月に3～5本ずつまとめて、水田に植えつけられま
す。いねの なえ きおん あ そだ かぶわ ほん なえ ほんいじょう
す。イネの苗は、気温が上がるにつれてどんどん育ち、株分かれて、1本の苗が20本以上
にふえます。

ちじょう とちゅう えだ だ おお ちちゅう
イネは、地上にのびたくきの途中で、枝を出して大きくなることはありません。地中にある
ねもと ふし えだめ だ おお
くきの根元の節のところから枝芽を出し、これがのびて新しいくきになります。このよう
なくきのふえ方を、「分けつ」といいます。いねやムギなど、たんしやうしょくぶつ おお かた
単子葉植物に多いふえ方です。

あおた
青田

ぶん かぶ は いちめん すいでん あおた あおた
分けつしてふえた株の葉が一面にしげった水田を青田といいます。青田のころをすぎれば、
ぶん ぶん ほ じき
分けつをしなくなります。こんどは、穂がのびだす時期になります。このころ、いった
はいすい すいでん ばあい とうぼう
ん排水して、水田をかわかす場合もあります。これを「土用干し」などといっています。

(監修・中山 周平)



最初の苗
5本のくきが新たに
できてきた

